

## 研究課題「長時間作用型 $\beta$ 2刺激薬が気管支喘息患者の肺機能経年変化率に与える影響」に関する情報公開

### 1. 研究の対象

・2015年1月1日から2019年12月31日に名古屋大学医学部附属病院呼吸器内科あるいは関連施設（大垣市民病院、名古屋第二赤十字病院、刈谷豊田総合病院）に通院中の気管支喘息患者さんのうち24歳以上、かつ6年以上の通院歴がある方

### 2. 研究目的・方法

気管支喘息の治療は、吸入ステロイド薬や長時間作用型 $\beta$ 2刺激薬の普及により、めざましく進歩し、喘息患者さんの発作による救急受診回数や喘息による死亡者数は近年著しく減少しています。しかし、これらの治療薬の長期的な効果、特に肺機能に関する効果については明らかにはされていません。

そこで、今回我々は気管支喘息で通院中の患者さんのうち吸入ステロイド薬および長時間作用型 $\beta$ 2刺激薬の使用経験がある患者さんの肺機能の経年的な変化を調べ、長時間作用型 $\beta$ 2刺激薬が喘息患者さんの肺機能低下率に及ぼす影響を検討するために、研究を計画しました。

具体的な方法としては、名古屋大学医学部附属病院呼吸器内科あるいは関連施設（大垣市民病院、名古屋第二赤十字病院、刈谷豊田総合病院）に気管支喘息で通院中で6年以上の治療歴のある患者さんの肺機能検査値および臨床情報を後方視的に診療録より抽出し、長時間作用型 $\beta$ 2刺激薬使用前後の肺機能経年低下率と発作入院回数などを比較します。

この研究の研究期間は、2015年2月18日から2020年2月17日までを予定しています。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

この研究に用いる試料はありません。この研究に用いる情報として、年齢、性別、身長、体重、喫煙歴、発症年齢、通院期間、薬剤治療歴、発作歴、入院歴、肺機能検査所見、血液検査所見等があります。

### 4. 外部への試料・情報の提供

外部への資料・情報の提供は予定しておりません。v

### 5. 研究組織

大垣市民病院 呼吸器内科 進藤 丈・安部 崇

名古屋第二赤十字病院 呼吸器内科 若山尚士

刈谷豊田総合病院 呼吸器・アレルギー内科 加藤聡之

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科 若原恵子（研究責任者）

（電話052-744-2167、ファックス052-744-2176）

研究代表者：

名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科 若原恵子